



谷川集落入り口にある地蔵

## 益城の文化財

# 谷川の放牛地蔵

—谷川—

谷川集落の入り口にあるこの地蔵は、放牛和尚が「10年間に100体の石仏を建立して父の菩提を弔おう」と発願して、生涯107体を建立した最後の石仏です。地蔵には「南無阿弥陀仏、享保十七年」と刻してあり、台石は塗りつぶされて見えませんが「一べんの称名の下には、八十億劫つみをめつ」という放歌が刻んであるといわれています。文献によると放牛は「細川綱利(5代藩主)の頃、古大工町に貧しい鍛冶屋親子が住んでいた。息子は評判の孝行息子と言われていた。貞享3(1686)年1月4日、父は不徳で武士を怒らせ、この武士に一刀のもと斬り伏せられた。息子は父の非業の死を見て悲嘆にくれ、意を決して仏門に入り、名を「放牛」と改めた。30年の修行を積んで享保7(1722)年より同17年10月まで、県内各地に107体の石仏を建立し、大願成就し同年11月8日に没した。」とあり、墓は横手町四方池台にあります。当時の民衆の生活は大変悲惨であり、生きていても地獄だったのです。そこで放牛は石仏の中では「六道を輪廻し苦しむ衆生の身代わりとなったり、救いの手を差し伸べてくれる」という地蔵菩薩を多く建立しました。

放牛の放歌に「神ほとけおがまぬ先に親おがめ、神も仏もうれしかるらむ」「なむあみだむなみあみだぶのほかほみな、思うもいもうもまよいなりけり」などがあります。

谷川集落の人たちは年に2回の草刈清掃を行い近所の方々がいつも花を添えられています。

参考文献『ましきの史跡さんぽ』

益城町文化財保護委員会

## 俳句

早川宏次 選

花起こす雨降り止めば暖く  
 駆け登るヒヨ追う猫や春の庭  
 ひな段に絵手紙びなも仲間入り  
 啓蟄に背伸びしている虫達が  
 朧夜や嫁の安否を憂ひおり  
 風運ぶ蠟梅香る散歩道  
 願かける息子の繪馬に母の添え

広崎 松原まゆみ  
 下陳 城 陶子  
 惣領 新居 露子  
 惣領 阪口由美子  
 木山 山口サツキ  
 惣領 阪口 基明  
 木山 増岡 伸禎

## 狂句

田上富岳 選

よしやるか 五目置いたら負けはせん  
 よしやるか 意気込みだけはいばしかつ  
 よしやるか 次の仕事がつかえとる  
 よしやるか 本気が出たぞ塾通い  
 よしやるか 男ん意地の見せ所  
 顔しかめ 梅干しなめるお食い初め  
 顔しかめ 帰宅の遅か待つ女房  
 顔しかめ 観音守る仁王さん  
 顔しかめ 予防接種に腕を出し  
 顔しかめ 苦いセンブリ酔いざまし

寺迫 左 喜樹  
 宮園 井藤 吉郎  
 宮園 永瀬 美波  
 惣領 阪口 基明  
 宮園 岩本よろこ  
 広崎 松原まゆみ  
 下陳 山田 凡骨  
 島田 堀川 骨鶏  
 惣領 小森英美子  
 木山 増岡 酔粹

## 狂句次号の課題 「見くびって」「さすがわが孫」

投稿は役場広報係まで。

投稿締切日は毎月15日です(当日必着)。

※数種に投稿される場合は、別にお送りください。